

決定的な問題は医師不足

上越市議会は21日、上越医師会会長の服部伸さんを招き、上越地域の医療の現状と課題について学びました。

服部さんは、「妙高市、上越市を含む上越地域は救急たらい回しが無いところとして有名だが、課題もある。上越地域センター病院などのリハビリ機能が弱くなると、県立中央病院などの高次医療を担う病院にも悪影響を与えていく。決定的な問題は医師不足だ。医師養成抑制政策、新医師臨床研修制度導入が根本の原因だ」などと語りました。



注目された 上野議員の党大会発言

「わずか4年ほどの間に党支部を7倍もの組織に発展させ、いつも楽しい活動を心がけている」。第25回日本共産党大会での上野議員の発言が党大会決議に反映され、党内で大きな話題になっています。写真は県党会議でも発言した上野議員。



議会基本条例のたたき台まとまる

議会基本条例策定検討委員会（内山米六委員長）がまとめた上越市議会基本条例のたたき台が21日、明らかにされました。



同条例のたたき台では、議会や議員の活動原則、議会改革に関する専門組織の設置、市民との意見交換の場の確保及び協働の推進を内容とした市民と議会の関係などが規定されています。

同たたき台は今後各会派からの意見を寄せてもらい、条例素案に高めていくとのこと。その後、全議員への説明会、市民説明会、パブリックコメントを経て5月中旬には条例案を議長に答申する予定です。

たたき台は橋爪議員のホームページ、『小さな町の幸せ通信』に掲載されています。ご意見をお寄せください。

【ロウバイ】雪の降る中で黄色の花を咲かせていました。柿崎区馬正面にて橋爪議員が撮影。



市長応接室で稲荷善之副市長と懇談する橋爪、樋口両議員。

日本共産党市議団は19日午後1時半から豪雪対策強化について市当局に緊急申し入れを行いました。今回の申し入れには橋爪、樋口の両議員が参加。上野、平良木議員は同じ時間帯に公務があり参加できませんでした。申し入れでは、①障がい者、高齢者など要援護世帯にたいする調査、声かけ、適切な対応を継続して行うこと。特に除雪要員確保については十分な手立てを講ずること。②市のホームページでの豪雪関連情報は速報性を高めるとともに充実を図ること。③ビニールハウスなど農業関連施設の被害状況を把握し、対策を講ずること。また、農畜産物の生産、出荷が困難なときは応援できる体制をつくっておくこと。④現在ある雪害関連の各種支援制度を引き続き維持・充実し、市民への周知に努めること。⑤災害救助条例、災害救

助法の適用については、2006年豪雪の時と同じように、合併前市町村の区域でひとつでも適用基準を超えた時は全市域に適用するよう関係機関に要請することなど9項目について要請しました。対応したのは上越市大雪災害警戒対策本部長の稲荷善之副市長、川上宏防災局長、笠原博都市整備部長です。稲荷本部長は、「（農業生産の実態などの）調査をして対応していきたい。ホームページについては申し訳なかつた、速やかに改善していく。災害救助法の適用問題については私どもも申し入れの内容で働きかけていきたいと考えている。職員も頑張っているのをご協力をいただきたい」とのべました。

要援護世帯への訪問活動の継続など9項目 日本共産党市議団が豪雪対策で市に要請

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 218 2010年1月31日

連絡先 橋爪 法一 548-3628 (吉川区代石)
樋口 良子 544-6802 (中門前3)
上野 公悦 530-2203 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 525-9096 (上中田)